

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>張碓小 7月20日</p>	<p>1</p> <p>只今説明いただいたが、平成27年度の小学校の学級数が13学級とのこと。現在の銭函小学校の学級数が12学級ですが、この学級数については、まだ余裕があるのか。資料では、銭函小学校は改修と書いてあるので、もし足りなければ増築ということもあり得るのではないかとということで、お聞きしたい。</p>	<p>27年度の推計で13学級になる、銭函小学校の校舎の関係だが、資料3ページの各学校の概要の銭函小学校の欄をご覧ください。二つ目の区分のところは学校施設の状況を書いている。四つ目の欄に保育教室の内訳を記載しており、普通教室は学級増による転用を含むと表記しているが、現状で銭函小学校は普通教室が12あって、さらに特別支援学級が2教室あるので14教室まで転用が可能となっている。特別支援学級がどうなるかということはあるが、現状としては、普通教室として今の建物の中で14学級分までは確保が可能であると考えている。</p>
	<p>2</p> <p>意見ではなく要望であるが、よろしいか。先ほど、担当者の説明があったが、5ページに書かれている「銭函小学校は優位である」との説明と、統合校として銭函小学校ありきではないとの説明も聞いたが、それを踏まえて要望をしたい。</p> <p>二つあるが、一つ目は、張碓、春香地区の学童数は以前から見ると増加傾向に向かっていると思っている。今後についても、春香地区には比較的安価な未分譲地も残っており、若い方の居住の可能性もあり、学童数の増加が見込まれると考えられる。また、校舎は耐震構造であるし、通学路の歩道の安全柵の整備がきちんとされている。冬期間においては、校舎周辺の除雪も万全である。</p> <p>二つ目は、子どもたちが心豊かに学習できる自然環境が整っている張碓小学校は、銭函地区で類を見ない学校であると過言ではないと私は思っている。まさに、小樽市学校教育推進計画に盛り込まれている「心豊かに学び ふるさとに夢と誇りをもち たくましく生きる 小樽の子どもの育成」と謳った小樽市の学校教育を支える基本理念と合致する教育環境がこの張碓小学校にはある。以上二つの要望をお願いするが、人口割合からいくと銭函小学校が大きいのかもしれないが、もう一つこの地区においても自然環境に恵まれた学校を残すということも再考していただきたいと思い今日参加した。よろしく願いたい。</p>	<p>私も今日これを持ってきて、これでやるんだから賛成か反対を聞いているという懇談会ではないということ、会長さんが言われたことと同じ気持ちで来ているので、そのことを前提としてお話をさせていただく。</p> <p>昨年の張碓小学校での基本計画(素案)説明会は、7月21日に開催している。ちょうど1年ぶりのお邪魔となる。その時も地域、PTAの方27人と学校規模の割にはたくさんの参加をいただき、その時も地域の方々から色々な発言を出していただいた。後段の方で、もう一方からあったように、昨年の説明会でどんな意見が出たのかというのは、市のホームページに400件ほど出たご意見、ご要望、ご質問を基本的には全部アップした。それに対して、教育委員会がその時点でお話をしたことも全部書かせていただいている。全部で100ページにもなる。今言われたように、反対、賛成、やるのであれば時期をきっちりと示してほしい、前段教育長の挨拶にもあったが、ただ意見をくださいでは議論がしづらいので、教育委員会で叩き台のようなものを作って次話をしようという意見もあって、今回示しているのは叩き台としてお持ちしたもの。</p> <p>数が減るから統合は仕方ないのだという考え方、あまり数の問題だけで考えなくてくれという発言かと思うが、私も小さい学校だから無くしようとか、単純に数が減ったからなんとかしなくてはならないと単純に考えているつもりはない。昨年言ったが、現実には、小樽の小中学生がピーク時は四万人を超えていたが、今現在すでに九千人を切っているという現実の中で、市としてこのまま小中学校41校をずっと維持していくということは考えにくい、やはりそれはできない。このことはご理解いただきたいと思っている。小さいところから無くしていく云々ではなく、やはり見直しはしていかなければならない。今回の基本計画では統廃合という言い方ではなく、小樽市内の小中学校を再編成していくという立場でお話をさせていただいている。まず、このことはご理解いただきたいと思う。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
張碓小	<p>私は、この学校再編の問題点について、いくつか考えがある。教育長の挨拶で言われたように、昨年このような懇談会を開催し400件の意見があったとのことだが、そのいくつか、賛成、反対や建設的な意見も含めた話があったと想像する。その中のいくつかでも今日の懇談会で披露していただき、私どもも参考にしながら、学校再編とはいかなるものかということも深めた考えをしていきたいと思うので、差し支えない程度にお教えいただきたい。400もあるのでそう簡単にはいかなさと思う。</p> <p>私はこの張碓に生まれ育ったわけではなく、遠くは岩見沢の方で生まれ育って、地元の小学校を出て高校というようにして今日に至っている。この張碓には20年から25年くらい住んでいる。学校の存続、廃校という問題は地域にとっては大変大きな問題である。残念ながら私の故郷の学校もすでに廃校となって、部落の会館か何かに使われているようだが、張碓や桂岡においても統廃合されるということは、その地域の問題として大変重要な内容を占める。この数字の中身でも小樽市の学級が何年か後に、この学校に入学する生徒が減少していくという推計があるようだが、我々地域で生活する者あるいは学校が地域のために必要だという観点から言えば、活性化するため、あるいは小学校に来るような教育環境、地域環境をいかに作っていくかという観点からの学校問題を考えるということも非常に大事ではないかと思う。ただ子どもの数が減ったから統合する、廃校にするのではなく、良いものがあればそれは残していく、それを残すためにどういふ施策が必要なのかを検討していくことが、教育に携わる人や小樽市を活性化させていくことの重要な中身になっていくのではないかと思う。先ほど言ったが、私の故郷の小学校は廃校になったが、多くの方が経験されているかと思うが、子どもがいない地域の将来は何となく寂しい感じがする。私の子どもはこの学校を卒業したが、孫もこの学校に通わせたい。できることなら、もっと魅力、色々な条件を考えながら他の人もとても良いところだと、先ほど会長も言っていたが、環境も大変優れている、小規模校といえどもその利点が生かされ、そのことが教職員やPTAの方が力を合わせて良い学校を作っていく。そこでの子どもの育成、将来立派な社会人になっていくような基礎を作り上げていく上でも、繰り返すが数が減っていくから統合やむなしということではなく、良い学校を作っていく、良い学校を残していくためにどういふ努力をしていくのかが見えないような気がするので、それは教育委員会だけの仕事ではなく、我々学校にかかわっている、学校を良くしたいと願っている人達と一緒に考えていく問題としても、前に戻るが400の意見の方もどのようなことを言われていたかということを知りたいと思う。</p>	<p>もう一点、小樽市内に複式の小学校はここを含め5校ある。教育委員会でも色々な分析はしているが、この張碓小学校では子どもさんの数はそれほど変わっていない。20年前の平成元年では、忍路中央小学校では150人の子どもさんがいたが、今現在では20人になっている。祝津小学校でも平成元年に78人いたお子さんが、今は12人になっている。現実には昨年生まれた子どもさんが730人くらいで、少なくなっているが、この張碓、春香地区だけを見ると少子化が進行しているといえない現実にあるのは私どもも理解はしている。昔から、この地区の学校は50人から60人くらいでずっと推移してきたというのは、まったくそのとおり。だからというわけではないが、この地区は計画の中で平成30年からの後期に位置付けて、その推移は見えていかなければならないと思っている。冊子の2ページを見ていただきたい。張碓小学校は、張碓町と春香町の二つの町から入学してくる。平成27年度推計で中学校は37人だが、小学校は51人だ。中学校は3年間、小学校は6年間だから、減らないということになれば中学生の倍の小学生がいれば減らないことになるが、現実的にはそのようになっていない。これは昨年5月1日現在の数値で、今現在は転入、転出の関係もあり変わってきているかと思うが、最近の住民登録上の資料でいうと、ここしばらく張碓小学校に入学してくるお子さんは、年によって7人であったり、10人であったり、おおむね10人くらいで推移していくが、27年度4月に入学するお子さんは4人という数字が出ている。次の年の28年度、昨年生まれたお子さんだが、これも4人となっているので、そういった推移を見ていかなければならないと思っている。</p> <p>それから自然環境の部分これは否定しない。特に、この地域の運動会やまた朝の団地からバスで通ってくる子どもさんたちのバス停での見守りなども知っているので、極めて地域との接点の広い学校、運動会も子どもの数より皆さんの方がずっと多いということも知っているので、そういう取組は十分承知している。ある意味どこの学校でも、特に小さい学校ではそのような取組は盛んです。</p> <p>ほかの学校でどんな意見が出ているかとあったので一つだけ紹介させていたのだが、わりと地区的にも自然環境面でも似たような条件の朝里川温泉にある豊倉小学校での懇談会で、地域の方からは、地域の学校ということで地域の方々との色々な交流をやっていると強く意見が出された。小さいからということではなく、残してほしいと。もう一方で、ある保護者さんからはこのままで良いのか。小さいクラスは親密度はあるが、ちょっとうまくいかないと中々難しい関係になるといった発言もあった。豊倉小学校は朝里中学校校区だが、20人の小学校を卒業して、市内で一番大きい何百人もいる中学校へ行くのは心配だという発言もあった。私どもとしては、その意見があったからやるとか、地域に残してくれという意見があったから残すとか、それだけではなく色々な思いというのはあると思っているので、ぜひそういった部分も含めて、色々な角度からご相談をさせていただきたいと思っている。昨年このことでの説明会ではどちらかと言えば地域の方々のご意見が多かったかと思うが、今日は保護者さんも参加されているので、こう言ったからどうだと言うことではなく、色々な意見を出し合うのがこの場、ぜひ保護者さんからの発言もできればお願いしたいと思う。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
張碓小	<p>4 今まで出た意見と重複するかもしれないが、PTA会長をやり始めて良く感じるが、張碓小の子の数は少ないが1年生から6年生までの縦の関係が良い。上級生は下級生の面倒を良く見る、礼節もわきまえている。私たちが学校に来ると、必ず子どもの方から先に挨拶がされる。思いやりのある子どもも多い。何を言いたいかと言うと、小規模校だからできることだと私なりに考えている。大きな学校はクラスがたくさんあるので横の付き合いはあるが、上下の付き合いはない。この学校は非常に良い環境にあると思う。統廃合は社会の情勢で必要だというのは良く分かるが、一つのモデルケースとして小規模校の良い特長を残す考えを持ってほしい。要望として願っている。</p>	<p>将来的な動きを含めてどう見るかという話だが、銭函3丁目の工業団地の部分については、今日企画政策室も来ているので、何かあればコメントはしてもらいたいと思う。もう一度2ページの表をご覧ください。平成27年度のこの地区の子どもの数を書いている。一番下の合計欄、小学生は396人、中学生は269人で、昨年現在の住民登録からとった数字だから出入りはあると思うが、今年の5月1日現在の数字では小学生が558人で、この5年間で百数十人減っていくこととなる。中学生も303人現在いるのが、269人だから、仮に人の出入りが一定程度あったとしても現状ではこういう状況になっている。</p>
	<p>5 銭函小学校は平成元年に改築され、平成2年に張碓小学校が改築された。桂岡小学校が昭和52年に建てられており、この張碓小学校が改築される段階ですでに桂岡小学校は老朽化し、その時点で再編などを勘案し、張碓小学校の規模を少し大きめに建てるという考えはなかったのか。</p> <p>この地区は中学校が1校だが、銭函地区は小樽市内と離れているが、札幌市と隣接しているにもかかわらずこの地区は人口増が見込めないと考えているのか。もし、星野、銭函3丁目、春香ニュータウンに人が流れてきた時に、銭函小学校1校で対応できるのか。3校を1校に再編し、銭函小学校が飽和状態になった場合に、その受け皿となる小学校1校の対策は考えているのか。工業地帯が住宅地になっていないが、小樽市の事情であそこを住宅地に変えていくという考えに変わったら、張碓小学校の存在が出てくるのではないのか。桂岡小学校を改築して大規模に建て替えとなると相当の費用がかかる。ここは、耐震は大丈夫、増築で済むのであれば安く上がるのかと、平成2年の段階から複式ありきの規模で建て替えているので、小樽市はそういうことを考えていなかったのかと思うが、もし考えているのであれば複式4学級のような作り方をせず、6学級規模で必要な特別教室も備えて建てていて、人口が減少したから、仕方なくここを閉めるということであれば分かるが、そういう計画もなく小さな学校を建て、これだけの税金を使って建てている学校であるので、銭函地区の学校の在り方、人口の在り方とか余力を残して考えているのかお聞きしたい。</p>	<p>人口増対策というのは、小樽市の最重要課題と言われてもう何十年となる。中々難しい問題だが、特に平成17年から日本国中が人口減少社会に突入していった中では、中々増加というのは難しいだろうという気はしている。手稲でも20年ほど前1,400人いた小学校が今統合の対象になっている状況。銭函のこの辺は割と入ってきているが、今は一つの団地が出来ても、ほとんどが一世代で終わってしまう。20年、30年経つとどんと落ちてしまう流れにある。小樽市内6ブロックに分けてこのプランを示しているが、前期と後期に分けて、朝里地区とこの銭函地区は後期に位置付けている。ご承知のとおり、朝里、新光はまだキャパがある、望洋もまだ奥の方、3工区、4工区はまだ計画はある、新光でもベイビュータウンなどまだ新しい家が建っているところもあるので、今後の推移を見ていかなければならないと考えている。この地区も今後どのようにしていくのか、そこは見ていかなければならない。特に、張碓地区は小樽全体の少子化とは異なり、どんと増えるわけでないが、ずっと維持してきているということを見極めながら再編の議論をしていかなければならないと思っている。</p> <p>平成2年にこの学校を改築した。その時の学級数は4学級。校舎を改築する場合、先ほど来出ているように多額の費用を要する。当然税金を投入するが、これには国の補助金が出る。国の補助金の仕組みとして、国だから余計なところにお金は使わない。プラスアルファでやるのであれば、自前でやってという話になる。張碓小学校はその当時の4学級の規模で補助金が出てくる、国補助制度はそういう仕組みになっている。例えば、将来を見込んで、将来の備えのために6学級の規模でここを改築すると、その2クラス分の経費というのは全額小樽市独自で全額税金を投入しなければならぬということになってしまうので、その後クラスが増えて増築ということになれば国の制度を使って補助金を引っ張って来るということもできるから、その時点で建て替えをした時にはそういう状況の前提で国の補助制度を使ったということ。</p> <p>先ほどから何度か、会長さんからも小樽市学校教育推進計画の2次計画に基づいた教育ということでお話があった。本市では「心豊かに学ぶ ふるさとに夢と誇りを持ち たくましく生きる子どもの育成」小樽の子どもの育成を掲げている。この言葉の一つに「たくましく」というのがある。私も勤務したことあるが、小規模校は子どもたちが少ない人数の中でそれぞれが責任感を持って、その中で礼節というものを学んで、これは地域や先生方、保護者の方の力だと思う。その中で大事に、大事に育てられ身につくのだと思う。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
張碓小		<p>併せて、私が最初に話した「遅く」という部分だが、これはこれから先、子どもたちが大人になっていく中で大きな集団の経験をしながら徐々にそういった社会性というものを身につけていくということの大切さだと思っている。学校が大きくなったから礼節が無くなる、責任感が無くなる、心がすさんでしまう、そういうことにぜひならないように、学校の規模に関係なく進めていかなければならない私どもの課題ですので、その部分は、それぞれの学校に十分やっていただくということで、私どもも頑張っていきたいと思っている。</p> <p>規模が小さい、大きいということではなく、その面ではどの学校も小樽市の学校ということで、対応していきたいと思っている。</p>
張碓小	<p>今日、30数年前ここにいた時の保護者の方にお会いした。その時は100人くらい児童がいた。その時、運動会や学芸会など色々な行事について地域の方に一緒になって協力してもらい、とても楽しい教員生活を送った。今でも良い思い出。恵比寿島のところで海水浴までやったし、大変良い思い出をたくさんいただいた。今でも先生方と地域の方の協力は続いているかと思うが、そういう伝統的な学校について、大きい小さいではなく、規模の問題ではなく、地域と子どもたち、教員とのつながりを大切にすることを基本にした学校づくりを教育委員会にはしてもらいたい。</p> <p>確かに、児童数の多いメリット、デメリットはあると思う。小規模もメリット、デメリットも説明会でも話されており、私も経過は知っている。そこはお互いに認めあう共通点だと思うが、地域の人と子どもたち、教職員がどのように学校を作っていくかというのが一番大切だと思う。そういう点で伝統のある学校は残してほしい。</p> <p>もう一つ残してもらいたいポイントの一つは、銭函小学校に編制された場合、春香の団地に若い人が結構来ているが、もし銭函小学校になれば春香に若い人は住むのか。遠いところにわざわざ家を建てて、そこから子どもをスクールバスで通わせるということは普通じゃないと思う。そうなったら、この春香地区、張碓地区はどうなるのか。子どもたちの遊ぶ声が聞こえなくなる。寂れてくることが目に見えてはっきりしてくる。桂岡に住む、小樽市長さんは昔20万都市を作ると言った。住んでいる桂岡が段々寂れている。確かに少子化は一人の力では止められないと思うが、教育に携わる教育委員会の方々、小樽市の方々には観光で小樽に人を呼ぶのではなく、小樽に住んでもらいたい、小樽で良い教育を子どもたちには学んでほしいという環境づくりのためにどう頑張るか、ここが大切だと思う。小樽は自然に恵まれている。それが第一だと思う。海、山とか。地域とつながった教育を重視していくということも併せて、もちろん基礎学力も含めてだが、そういうところをもっとアピールしながら、小樽に住んでほしいという宣伝をさらに強めてやってほしい。小樽の教育環境を良くしていくことに努力をお願いしたい。</p>	<p>小樽の教育がこのように進んでいるという話をさせていただく。先生から、家庭と地域と伝統というお話があったので、そのことについてご理解いただきたいと思う。</p> <p>実は今から4年前、小樽市の学校教育の推進のために、小樽市の鳥でもあり、この皆さんご存知の「あおぼと」というのを名前にした「あおぼとプラン」で、学校教育を進めていこうと、大きな五つの柱を持って、それぞれの学校の先生方、校長先生方、教頭先生方の協力を得ながら、大きい学校も小さい学校も活力あふれる学校にするために3年間取り組んでいただいた。その成果は大きなものがあつたが、せっかく3年間取り組んできたので、さらにそれを発展させる意味で、昨年、5年計画の第二次小樽市学校教育推進計画を立てた。その一番基になるのは、五つあるが、小さい目標、重点が四つあって、それを全部含めて「信頼にこたえる学校づくり」を私どもも進めている。信頼を得るのには、子ども一人ひとりの学力をつければ駄目、豊かな心にしてもらわなければ駄目、何よりも健やかな体づくりをしてもらわなければ駄目、また時代がどんどん変遷しているので、当然社会の変化に対応したそんな教育をしてほしい。それらを全部ひっくるめて、四つを一生懸命取り組むと、つまり「信頼にこたえる学校づくり」になる。</p> <p>私どもは、現段階ではどんな小さい学校でも、朝里や桜の大きい学校も、どんな学校でも先生方が一生懸命取り組む毎日の努力を踏まえて、信頼にこたえる学校づくりに取り組んでいる。その信頼できる学校づくりの第一として皆さんのご家庭に、この張碓では10年も20年も前からやっていると思うが、学校便り、色々な学校の行事に参加してもらって、信頼を得る、開かれた学校づくりに取り組んでいると思うが、これは小さい学校だけではなく、大きい学校もインターネットホームページを使いそれぞれの学校で取り組んでいる。ここの学校の取組は、皆さん自信を持って色々話せると思うが、ここの学校の取組以外にもインターネット等があったら、よその学校の取組を参考にしながら、当面後期に当たるが、今の取組をさらに充実して子ども達がこれからの社会に羽ばたいてもらう、そういう想いを込めて進めているので、ぜひそこところはご理解いただき、その上に立ってこれから学校の再編をどのようにするのかをまた皆さんと十分に話し合っていきたいと思う。そこはご理解いただきたい。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
張碓小	<p>もう一つ、これから考えていかなければならないことは、中央教育審議会です。今30人学級という話が出ています。それが実際には計画されていないから30人学級で編制されていないが、30人学級が近々行われた場合に、小樽で編制した時に教室が足りなくなるところがあるのではないかと心配している。銭函小学校の場合、先ほど14学級は確保していると言っていたが、特別支援の学級は二つ必要だろうと思う。そうすると12学級の普通学級が必要だ。それが30人学級になると、増える学年が二つくらいあると思う。足りなくなると、潰されるのは特別教室か、プレハブを活用することになると思う。プレハブでの学習は夏には大変だと思う。特別教室を潰すとすると、子どもたちが特別教室で自由に勉強できる環境が壊されていくことになる、その辺は配慮していただきたいと思う。少し専門的になったが、そういうことを考えた編制をした方が良く思う。</p> <p>最後、朝里地区、銭函地区は8年後、後期ということで、平成30年度ということだ。ここには、現在の保護者はいるが、8年後に通ってくる子の保護者はいないのではないかと。銭函、桂岡と三つの懇談会に参加したが、ちょうど自分の子が入学される時期の保護者の参加はおそらく無かったのではないかと。来ない人が悪いということではなく、今編制のプランを立てているのは分かるが、結論はもう少し先延ばしして、5年後くらいにどうなっているのかという説明会を開いてほしい。要望になるが、朝里地区、銭函地区については、5年後に情勢が変わった段階でプランを出して、もう一度話し合っていたいただきたい。そこで地域の方々の意見を聞いて、委員会としての結論を出してほしいと思う。長い間教育委員会はほとんどの小中学校でこのような懇談会を開いて大変だと思うが、ぜひそういう努力も後々に残してもらいたいと思う。それと前にも言ったが、小規模校は数ではなく、地域とどのように教育を作っているかという歴史的なことを十分に考えて検討していただきたい。</p>	<p>中教審の話が出ていた。考え方について先日の新聞等々でも出ていたが、30人か35人かはまだ現状では出ていない。小学校低学年は30人程度という記事が出ていた。先日桂岡小での懇談会の時にも教育部長から少人数学級は期待をしている旨お話をさせていただいた。そこには期待をしているが、一方では今お話しのとおり、児童数の推移によって学校規模がどうなるのかという問題もある。先ほど普通教室は14は確保できるとお話をしたが、これは現状の中での問題であり、規模がこれを超えると特別教室の転用などそういった部分は一定程度考える必要は出てくると思う。ただ、その際にも子どもさんにはできるだけ負担のないように、最善の努力はしていかなければならないと考えている。</p> <p>懇談会の参加者の関係で、ここは後期という位置付けをしているので今から8年後というお話をいただいたが、幼稚園や保育園に通われている保護者の参加がないというお話、確かに私も小中学校に懇談会のご案内をすると同時に町内会にも回覧板という形をとっており、幼稚園、保育園についても懇談会の案内、さらに昨年基本計画を作るまでの過程、経過も一緒に配付して、ぜひ懇談会に参加いただきたいと、お配りしたのは事実。その面では、残念だと思っているが、今後このような懇談会、ホームページの中では当然いただいたご意見、今後教育委員会がこのようにお話をしている内容も含めて示したいと考えており、それ以外の手法も使って、保護者、まだ入学前の保護者の皆さんにこういった情報が伝わっていくように、色々な手段を講じていきたいと考えている。</p>
7	<p>今答えていただいたが、ホームページで今までの経過を示すと言ったが、後期だったら8年後だからホームページではなく、もう一回5年くらいでもいいから説明会を開いてほしいと言ったのだが、それについて回答願いたい。ホームページで済ませようというように聞こえたので。</p>	<p>計画全体としてここは後期に、具体的には平成30年度と位置付けている。私どもこれまで、前期、後期を含め41校でこのような懇談会をやってきた。地域によっては、統合するのであれば時期を明確にして急いでくれというところもある。先ほど紹介した朝里地区の豊倉小学校のように残してくれという意見と20人という児童数の中では一定程度目処をつけて考えていきたいというご意見、それぞれの方からいただいている。こういう中で皆さんどっちにしますかと、決を採っている訳ではないから。私どもとしては、ブロックごとに出された意見をまとめて、今後このブロックではこういう進め方をしていくことをまとめて、相談させていただく場面を作らなければならないと思っている。8年後までも来ない、5年後にまた来るということではなく、この懇談会の中で出された意見を取りまとめて今後どうしていくのか、ブロックとしては後期になっていても、個別の学校としては少し急いでほしいという意見も出てきているところもある、その逆もある。ブロックとしては前期だが、うちの学校はというところもあるので、全体の取りまとめをさせていただいてから、またそれぞれの地区とのPTAはもちろん、地域との話し合いをさせていただきたいと思っている。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
張碓小	<p>8</p> <p>45年前にここに嫁いできた。なんでこんな田舎に来たのだらうと思った。その後、この町が大好きになり、この張碓小学校みたいに良いところはないと思う。私たちとしては本当に残してほしいと思う。PTA会長さんたちが住む春香ニュータウンはまだ半分以上が空き地で、5年後、8年後にはきっと満杯になると思う。それで、もしこの張碓小学校が無いとなれば買う方は誰もいない。なぜここが拓けてきたかと言えば、春香ニュータウンを買って、海が近い、山近い、お金はかからないというのが魅力で来たんだと思う。今、南極に行っている方もこの張碓小学校に入学させたいということで、昔で言えば、札幌の盤溪小学校がありました。その学校は、昭和29年に廃校にするとなっていました。ところが、学校を特色として、越境して来る生徒がどんどん増え、今まだ盤溪小学校はあると思いますが、私たち住民はいかにして張碓小学校を今後残していくには、地域の方々も一体になって、張碓小学校の特色を生かしながら皆で協力し合って、この小学校を他の方がおっしゃったように、8年後に児童が多くなった時に張碓小学校が無くなって、あの銭函小学校の面積の中に、それだけの土地の中で学校を増やすことができますか。やはり私は張碓小学校を絶対に無くしてほしくないと思います。桂岡会館まで行くことがあるが、本当に空き家が多い。なぜかという、国道5号線より奥行きが深いからです。ここは、間口が広くて奥行きがありません。来るとなれば皆さん5号線のバスを利用しなければならぬので、地域的には本当に交通には便利だと思ふ。地域に住んでいる者としては、五代この小学校に入りましたので、ここに住みたいと言う子どももいるかもしれませんが、こんなに良いところは絶対がない。お金のかからないこんな良い学校はない。絶対存続させたいと思う。</p>	
	<p>9</p> <p>先ほどは銭函小学校の学級数を懸念して質問した。その間、保護者や地域の方から学級数について色々質問があった。私もその辺が一番気になっている。というのは、銭函小学校も10年くらいまでは、翔洋台の団地から小学生が来ていたが、6年間過ぎてガラッと少なくなった。その時には教室が足りなく、今プレハブが建っているがあの中で音楽をやったり、子どもたちは暑い中で過ごしたそう。銭函小学校へ行くと校長先生も大変だと言っていた。そういう中で、小樽市の今後の人口推移とか開発に関して、望めないのであれば断念することになるかも分からないが、小樽市としてはそんなことは考えていないと思う。これから一番発展するのはこの銭函地区が中心ではないかと思っている。</p> <p>先ほど14学級の教室があると言っていたが、子どもの定員数が30人学級になると、あるいは地域の小学生の人数が増えた場合に、今の段階で満杯ではないかと思う。そういうことが追い打ちになると、あの当時も校舎を上に乗越すことができない、横にもできないということで、またプレハブで凌ぐのかと思っている。ここから行った子どもたちのそのような教育を受けてもらいたくないということもある、一つのクッションとしてこの学校がその役を担うようなことも考えていただきたいと思う。</p>	<p>人口の問題と銭函地区のまちづくりについてご質問あったが、人口について、今の統計上でいくと少なくとも30年から40年は減少が続くと言われている。これは全国的な傾向。このデータの平均値よりも小樽の数は悪いから、全国平均よりも速い速度で人口が減っていくというデータが残っている。これは、女性が一生の間に産むお子さんの数からだいたい算出できるが、そういったものからは少なくとも何十年かの間は人口が減り続けるだろうと推測はしている。ただ、人口の増というものは、ヨーロッパでは人口の増に転じたところもあるが、国の政策によるところも大きく、一自治体が人口増に結び付けていくというのは難しいかと思っているが、そう言っても、私ども何とかこの小樽に人口を定住させたい、あるいは外から移住していただきたいという政策は常々としており、この何年かでも本州から小樽の自然環境にあこがれて移住されている方も少しずつ多くなってきている状況にある。この銭函地区のポテンシャルとも関係するが、他の地域から小樽に移住されてくる方は、小樽の自然環境の良さみたいなものを求められて来ているので、この銭函地区のポテンシャル、先ほど来出ている、一つは自然環境の豊かさ、あるいは銭函に工業団地があって働く場所もある、札幌に隣接しているといったこの地区のポテンシャルがあると認識しているので、この地域の特性を生かしながら、この地区のまちづくりは進めていきたいと考えている。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
張碓小	<p>10</p> <p>先ほどから、張碓町会長さんからもそれ以外の立場の方々からも、素晴らしい張碓の町の良さ、あるいは小学校の素晴らしい実践報告といったものが出されたが、こういうものが良いと皆さんに認められれば、あるいは市教委の方々に認めていただければ何とか残す方法があるのではないかと考えている。私は残す方法の一つとして、先ほど盤溪小学校の話が出ていたが、盤溪小学校は今120～30人くらいいるのではないか。これは越境入学を認める特認校という形で大きくなってきている。この張碓小学校も特認校という形で、さらに素晴らしい子どもたちを育てていくということで、ぜひ特認校という形で残していただきたいと思う。特認校の認定は市町村の教育委員会が行える。何も道教委が良いとか、悪いとか言う筋のものではない。ですから、ぜひ今日お見えになっている教育委員会の方々に張碓小学校は特認校でもやっていけるんだ、持っていけるんだと、そういう形でぜひお願いをしたいと思う。</p>	<p>先ほども少し触れたが、張碓小学校でのこのような懇談会になると、ほとんど地域の方、町内会の方から、学校との関係、地域の素晴らしさなど色々発言をいただく。私どもも、子どもが少なくなれば良い、人口が減れば良いとは全然思っていない。できれば、このような学校再編はしなくても良いように、子どもが増える、人口が増えてほしいと願ってはいる。そのための施策は今担当から申し上げたが、やっていかなければならないと思っている。</p> <p>おっしゃるとおり、ここは減っていないというのがある。今の時代で減っていないということは新規に来ているということだと思う。固定するとすぐ減っていくので。私どもも、この地域の住環境の良さも含めた部分というのを今後見ていかなければならないと思っている。</p> <p>小規模特認校の話もいただいた。札幌では盤溪小学校、江別では野幌小学校が小規模特認校という制度をやっている。この小規模特認校は相当色々な条件を付けてやらなければ、よそから来ていただいた、校区以外から来た家庭には1年から6年間責任を持たなければならぬ。あくまで主体は、ここに住んで、この地域の学校に通う子どもさん、保護者さん、そこのバランスも十分考えていかなければならないと思っている。ご提言の部分は、この学校再編とは少し質の違う議論になるかと思うが、ご提言いただいた部分は、今日この会場で発言があったことは踏まえさせていただき、今後の一つの課題としていかなければならないと思っている。</p>
桂岡小 7月13日	<p>1</p> <p>今説明いただいたが、教育委員会の方向としてはもう決まっているという理解で良いか。というのは、少子化がこれ以上良い方向に向かうことは考えられない。そうすると、市としては、統廃合は考えざるを得ないということは理解できる。さて、どこの学校というのは私も関心を持っていたが、ここ桂岡小学校は自慢するわけではないが環境としては最高だと思う。空気が良い、国道から離れているから。先ほど触れられたが、広いグラウンドがある、ということであれば何とかあるのか、淡い望みですが。銭函小学校(を統合校とすること)に反対はいたしません、移行する場合にはバスの運行など子どもの安全・安心をまず考えていただきたい。その上で、銭函小学校にこの地区の子どもたちが通うのであれば、賛成はしかねるが、いたし方ないと思っている。</p>	<p>今、プランを説明させていただいて、最後に検討結果で、銭函小学校が適切であると冊子には記述した。1ページを見ていただきたい、タイトルの下に囲みにこの資料の意図として、地区別懇談会で皆さんの意見を聞きながら教育委員会としては決めていきたい、皆さんと協議をして決めていきたい、議論のたたき台として本日配付し、41校を対象に5月17日から7月22日まで懇談会を開催している。私どもも、統合校はどこだということを決めたものではない。学校規模、通学距離、学校施設の三つの観点で検討した中では、こういうのが適切だということを書いた。お話のあった環境、グラウンドが広いということも大事な要素であり、施設面の関係でここに整理させていただいた。</p> <p>もう一点、子どもさんの安心、安全については、学校再編をしていく中で、41校を21校に再編していくと基本計画で示しており、当然子どもさんの通学距離は長くなっていくことから、子どもさんの安全確保として、通学距離の負担を減らすためスクールバス、路線バスなどバス通学の支援などを考えていかなければならないと思っている。子どもさんの安全確保のためには私どもも当然気を遣っていきますが、どのような通学路を通ると安全が確保されるのか、そういった点については、保護者の皆さんまたは地域の皆さんと協議をしながら、決めていきたいと考えている。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
桂岡小		<p>今、これだけ少子化が進んでいる中ではやむを得ないというお話をいただいた。</p> <p>桂岡小学校の児童数が一番多い時期は昭和59年で、中心部では昭和30年代だが、ここは団地の造成に合わせて学校を建てており昭和59年がピークになっている。その時の小学生の数は626人で、現在一番大きい朝里小学校よりも多い。クラス数も18学級で、今で考えるとマンモス校だ。残念ながら、その後減ってきて平成13年から各学年1クラスになり、今日に至っている。</p> <p>今、担当からあったが、今回私どもはこのプランは皆さんからの色々なご意見をいただきたいということで、プランをお示しして、前段の説明でも、張碓小学校を統合校とした場合にはどうなのか、ここ桂岡小学校を統合校とした場合にはどうなのかと、銭函小学校を統合校とした場合にはどうなのかと、それぞれの条件でパターンを検討した。この地図だけ見ると、この桂岡小学校はこの地区の真ん中にあり、通学距離から見れば桂岡小学校が妥当ではないかとの意見は出てくるかと思う。ただ、ご理解いただきたいのは、桂岡小学校を統合とした場合に、星野町から5キロの距離になる、銭函小学校を統合とした場合は、一番遠いところは張碓の大曲のところから4.7キロ程度、図面では桂岡小学校が真ん中辺りに見えて、通学距離が一番短くなるかと思われるが、実際にはこの広い地区だからそうではないということも、一つの要件としては銭函小学校を適切としたという判断の理由にある。</p> <p>もう一つは、この地区はいずれにしてもバス通学になる。どこを統合としても多くのお子さんがバス通学になる。現在、銭函小学校に通っているお子さんと、あかしあ団地の方からは50人ほどおり、スクールバスを1台用意している。星野町からは108人でスクールバスを2台用意している。この銭函地区はバス通学を考えなければならないが、道路事情から、環境面ではこの桂岡は高台にあって良い、グラウンドも広いという優位点は間違いなくあるが、今後さらにバス通学を拡大していかなければならないことを考えると、冬場は相当厳しい面があると思う。この地区だけではなく、今回の再編計画では小樽市内全部でやるものだから、相当バス通学の分が増えると思う。その場合、路線バスがどのくらいの本数が走っているのか、スクールバスを出した場合でも冬場の運行にどこは支障が無いのか、そこを考えていかなければならないということで、今日の懇談会でこのような意見があったときちゃんと記録し、色々なところでこのような意見があったと申し上げていくが、私どもの考え方としては、そういったものも含めて、バス通学が多くなるという中で、交通事情としてどこが良いのかということ要素を入れて考えなければならないということをご理解いただきたいと思う。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
桂岡小	<p>この前の銭函小学校でも言ったが、教育委員会の話を聞くと、どうしても数合わせの方が優先的な話が多いと思う。銭函小で連合町会長が、地域の伝統、地域性があるとの話をした。数で割りきれないものがあるんだということを頭に入れて話をしてほしい。以前の話では、教育効果の面、子どもの教育条件とかあったが、大分話が煮詰まった部分があるから今日は省略したのかと思ったが、私は根本的には学校は残してほしいと思っている。それは、最後の張碓もあるので今日はここで言いたくないので。やはり学校が無くなるというのは、地域にとって大変なことだ。でも少子化で、地域の方がどうしてもしょうがないとなれば、私たちはそういう意見をはねのけてまで、残せとは言えない。でも、そういう気持ちを十分考えてほしいということ、銭函地域は後期ですから、8年後くらいですからあまり関心が無くて、集まりが悪く残念に思う。</p> <p>三つ質問がある。一つ目はプールのことが話に出ました。もし、8年後に桂岡が無くなった場合に、銭函地域にプールが無くなる。小樽市としては、銭函地域にプールは残すべきだと私は思う。蘭島の水泳学習も無くなったし、子どもたちに安全な水泳指導をするのはプールが一番だと思う。高島まで行くわけにはいかない。銭函地域にプールは必ず残していただきたい。皆さんは8年後にここにいるか分からないが、桂岡が無くなった場合、どういう考えを持っているのか聞きたい。銭函小学校にプールを建てる敷地は無いと思う。どのようにお考えか。</p> <p>二つ目は、市内の学校が無くなると体育館で色々運動している方がたくさんいると思います。その方々は、生涯学習という意味も含めて、健康のために運動をしている。そういう機会が失われる。体育館だけ残して、社会教育の職員を配置するか、地域の方に委託して体育館を残して、社会教育、社会体育みたいなのを継続していただけるのなら良いが、そこをどうお考えか。</p> <p>三つ目、8年後ということだが、近くなってからもう一回このような話があるのか。今日、話をして、そのままというのであれば忘れてしまう。8年後に、もう一回こういう機会を設けてくれるのか。具体的に変わった場合に、今委員会として提案はしないと。いつ、煮詰める話をするのか、そこを聞きたい。</p>	<p>学校施設は地域にとって大切なものだと、質問に入る前にお話しただいたが、各学校それぞれ歴史があって、またその地域とのかかわりも持って学校運営をしている。また、そこに地域の方がかかわってきているということで、地域との繋がりというのは、もちろん否定できるものではありませんし、私どももそれは大事なもの、大切なものだと認識している。数合わせだのお話ですが、学校再編に当たっては、昭和30年代4万人いたお子さんが現在8千人程度になっているという小規模化の現状を踏まえた中で、当時からそれほど変わらないこれだけの学校数をこの先維持していけるのかという観点から、学校再編に取り組んで、ここ数年基本計画を策定するまで取り組んできており、昨年の説明会はその基本計画素案の説明をさせていただいて、その中のご意見で教育委員会としてもたたき台を作って示してはどうかという意見をいただいて、このようにたたき台をお示ししている。前段の部分のお話は、今日はしていないが、このようなプランを作って皆さんのご意見を聞きに来ているということでご理解いただきたい。</p> <p>プールの件、基本的には地域の中で学校施設の在り方は、今後再編していく場合に、このプールを含めた学校施設、校舎、体育館をどうしていくかということ、もちろん市の方で考えなければならないが、地域の皆さんの意向を聞きながらどういう利用の仕方があるのか、また、その費用負担の問題、市が見るのか、民間にお願いをするのか、地域に協力をお願いするという手法もあるかと思うけれども、今後学校再編を進めていく中ではその観点は大事な観点であると思っています。小中学校41校すべて市では避難所に指定していますので、その位置付けの問題についても整理していく必要があると考えている。そことの関係の中で、学校施設については整理していかなければならない課題であると思っています。</p> <p>二つ目の社会体育としての学校の体育館を利用している部分、そこについても学校施設の跡利用の中で利用方法についてどのような観点が一番望ましいのかを整理していく必要があると思う。</p> <p>三つ目、後期だから、後期の計画の中で今後どうするのかということだが、今年度からこの計画はスタートしているが、まず市内41校を回って、そこでいただいたご意見はホームページを通じて皆さんにお知らせしていく、さらに年に何回出せるかまだ分からないが、出来る限り学校や町会を通じて、学校再編でこのように動いているということをお知らせしていこうと考えている。ただ、8年後になるかその前段から動き出すかということはあるが、またこのような懇談の場を設けて皆さんのご意見を聞く場は当然必要になると思うので、その時点で、町会、学校を通じ、さらに市の広報やホームページを使って皆さんにご案内をして、このような場を設けて、議論をして、ご意見をいただく場を設けなければならないと考えている。</p>
3	<p>本校の教職員の一人として、また過去に、50年代後半に3年間、18学級あった時の教職員の一人としても、桂岡小学校は残してほしい、あってほしい学校だと思う。ただ客観的に交通事情なども見ると、絶対桂岡を残してとは言えない状況にもなっているとも思う。3校の中で、2校は無くなるわけで、本当に一つの学校になってしまうまでは、統廃合するので、無くなる学校は適当な、例えば、修繕とか施設、設備をおろそかにすることのないように、強くお願いしたい。</p>	<p>今、先生がお話しされたことはもっともなことだと思う。他の会場でも同じような質問が出て、そのような形になっても必要な修繕などは続けていくとお話をさせていただいている。抜本的なことは中々出来ないことはあるが、そういったことは引き続き続けていきたいと思っている。</p> <p>この桂岡小学校を例にとりますと、今年は皆さんの目には見えないところではないが、高圧受電設備というのがあって、学校の場合高圧で受けて、100ボルトにする小さな変電所みたいなのがあって、その設備が老朽化しており、この学校は暖房も電気、そこが壊れるとライフラインということもあり、かなり費用はかかるが修繕をしていく。そういったことで必要な部分は引き続き修繕をしていく。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
桂岡小	<p>桂岡に在籍している。さらに下の子は、再来年入学する予定の母親。先ほど先生が言ったように、不安点としては統廃合により無くなる学校ということで学校全体の活気が無くなってしまふこと。以前もこのような場で言ったが、皆さん関心はある。上の子は、桂岡小学校に入学して卒業できても、下の子が統廃合により、途中で転校するとなるのであれば、可哀そうだから、この学校の区域でも初めから銭函小へ行きたいという親御さんの話を耳にする。やはり、無くなる小学校ということで、環境的に人数も減って、設備も良くないのではないかと、お金をかけてもらえないのではないかと、学校自体も老朽化してくると思う。学校には新しいものがどんどん導入されているが、ほかの学校よりも後回しにされてしまうのではないかとか、不安が多いので、それであれば最初からというのを聞くのですが、入学通知が桂岡でも距離などで銭函小で入学許可がおりるといふこともあって、当初よりも入学者が減ってしまうというのがあるが、それ以前に桂岡の近くに住んでいても、頑張って銭函へ通わせるという親御さんがいた場合、これは質問だが、下の子が銭函小学校になるのであれば、新しく入学させるのは同じように上の子を銭函小学校に入学させたいとの要望があった場合は、教育委員会として許可するのですか。</p> <p>お願いだが、今日見て分かるとおり、下の子がいるお母さんたちは適正配置の説明会に関心が無いわけではなく、6時半からの開催では、小さい子をお持ちのお母さんたちは、子どもを寝かせつけなければならない時間であって、関心があっても参加できません。できれば、これからは、日中、午前中、10時半とか11時に開いていただきたいと思う。</p>	<p>まず、時間設定の部分、できるだけ多くの方に集まっていたらいいと思っており、夜の方が良いと思この時間に設定した。今後PTAの集まり、役員会とか、これは日中でも全然構わない。言っていたら、今日のような説明でも、またしにいくので、日程、時間の設定、どんな形でも私どもは対応できるようにしたい。</p> <p>学校再編に伴っての特認の部分、これは今学校にいる子の保護者さんはもちろん、これから学校に入れるお子さんをお持ちの保護者さんにも、大変大きな問題、考えられているところだと思う。今日配付した使用の2ページをご覧ください。一番下の◆のところ、ここはまとめて書いてある、簡単にしか書いていないが、趣旨としてはこのように考えている。「学校再編に伴い、在学中に統合することになる学校への入学予定者については、再編後の新たな通学区区域や通学距離を考慮した特例を、また、統合の時点での在在生についても、交友関係や通学距離などを考慮した特例を設け、指定校変更、いわゆる特認、の弾力的な運用を行います。」と極めて役所的な言葉で分かりづらいついがあるかと思うが、上の方で言っているのは、例えば2年後にA校が無くなる、B校と統合になる場合、今年1年に入る子は、2年後に統合になるのだったらもう先にいきたいと思われる部分、そこは弾力的に対応する。そういう申し出があれば特認の一つの特例として対応するというのを前段で言っている。後段で言っている部分は、この地区ではわりと考えにくい、中央・山手は学校がいっぱいあり、一つの学校が二つの校区に分かれることがある。今各学校とも人数が少ないから、1クラスで15人とか20人とか、学年全部で。それを分けると、こっちの学校に15人のうちの12人、もう一方の学校には3人だけ、中には男の子と女の子半分くらいだとすると、こっちの学校は男の子ほとんどで、もう一方の学校は男の子一人しかいないということになると、子どもはゆるくない。そういう場合であっても、特認については弾力的に考えるということの意味している部分。ここは後期に位置付けているが、先ほど言われた8年後という、そこも微妙なところがある。</p> <p>ほかのところでも懇談会を開いてきたが、今日6月25日までの懇談会でいただいたご意見を市のホームページにアップした。具体的なお話をさせていただくが、ここと同じ後期に位置付けた朝里地区で、豊倉小学校という20人の小さい学校の保護者さんから、ここまで小さい学校になっていると、平成30年度以降の後期ではなくもっと早い段階での協議はできないのかというお話もあった。大きくは前期、後期に分けているが、私どもとしては、このような懇談会で色々な意見が出る中では時期も含めて一定の議論はしていかなければならないと思っている。</p> <p>実は、来週張碓小学校での懇談会がある。昨年の説明会では地域の方々の意見が極めて多かった、大半ここを残してほしいとの意見が多かったが、今回このように具体的なプランを出した中で、地域の方のご意見はもちろんあるでしょうが、保護者さんからどういったご意見が出てくるのかお聞きしていかなければならないと思っている、ぜひその辺も含めて、現在お子さんを学校に通わせている保護者さんからのご意見をいただければと思っている。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
桂岡小		<p>活気のある学校ということで、お話があった。もう少し別の目でこの学校を見守ってほしいと思いお話をさせていただく。先生方、校長先生、教頭先生もおられるが、ここの学校はこの数年来、前任者も、その前任者も校長先生、教頭先生を中心に猛烈に、信じられないくらい素晴らしい実践をやっている。小樽でもトップ級の実践だと思って見ている。そういう中で、例えばこの学校が古くなった、統合になるから色々な面で不便を感じているのではないかと言われたが、決してそんなことはない。例えば、コンピューターでは、小樽のどこの学校にも新しいコンピューターを同じ台数は入れている。学校便りを一つ見てもここの学校は、今何をやっているのか十分感じられるし、ここの学校便りはここの保護者のみならず、町内会のみならず、小樽中にインターネットで全部の学校で見られようになっている。全部の家庭でも見られるようになっている。ここの学校の保護者である限り、私は素晴らしい学校だという見守りをぜひしていただきたいと思っている。私は小樽市の中で猛烈に期待している学校の一つですので、決して活力が無いとかという思いではなく、先生方全力で子どもたちに力を注いでいるということだけはご理解をいただきたいと思う。</p>
5	<p>だいたい話が見えてきた。ただ、この地区に現実に私は住んでいる。学校が無くなると先ほども触れていたが、学校が無くなるというのは、非常に寂しくなる。また、この地区は高齢化が進んでいる。今年は、たまたまこの町会から小学校へ9人が入学した。これは一学年の半数だ。かつて、二人、三人が続いていた。今年は9人の新入生がいると大喜びをした。考え方としては、そろそろ出ていた息子さん、娘さんが親のところに帰ってきて子育てを始めてくれているのかと思って見ている。喜んでいる。話は変わるが、統廃合が終了した段階で、先ほど学校開放等に関する施設等は存続させるということ聞き安心しているが、施設だけ残ってもこれまでの卒業生は、我が学校はどの昔に消えてしまった、ということでは、寂しいわけです。これは夢のような話だが、ここのグラウンドは広いのだから、ぜひ桂岡小学校が存在したというものが生かせるものを何か作る。あまりお金をかけなくとも良いが。一つとしては、これは夢ですが、メモリアルの公園を作っていただきたい。そうするとそこには桂岡小学校の名前が入った公園であれば、あそこに行けば、海が見える、環境も良いと、大人になった卒業生が帰ってきて、あるいは訪ねられるかもしれない。(桂岡小学校が)ここにあったということであれば、ソフト面で大事なことかと思うので、これらも考えに入れていただければ幸いです。</p>	<p>学校の跡地利用ということで一つの提案をいただいた。学校の跡地利用としては、まずは教育委員会が説明している統合校が決まった時点で、実際に、具体的に動き出すものと思っている。その中で、当然地域の皆さんのご意見、ご要望を十分お聞きしながら、市内では41校が21校になる、かなりの学校のところが出てくるので、小樽市全体のバランスも考えながら、繰り返しになるが、地域の方々のご要望を聞く機会も当然あるので、そういう中で声を聞きながら跡利用について進めていきたいと思っている。今ご提言いただいたメモリアルの公園というの、メモしているし、ご意見、ご要望として承る。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
桂岡小	<p>話を伺っても正直なところ漠然とした不安感というのは拭えないものがある。自分は桂岡小学校を卒業したということもあり、上の息子、高校1年の子もこの学校を卒業した。小学校で絵本の読み聞かせをさせていただいて8年目になる。来年1年間だけ小学校にいく子はいないので、銭函小学校に行こうと思えば行けるんですが、すごく愛着がある。下の子が入る時は（人口推計からは）11名となっている。でも、もしかしたら、5人、6人になるかと思いつつ見ていた。ちょうど卒業するくらいの時期に統廃合になりそうだが、桂岡小学校を卒業させたいという思いがあるので、この学校を入学校としたいと考えてはいます。ただ、先ほど言ったように、途中で人数が大きく減ったりすると柔軟に考えますということになると、その流れで転校もあり得るとか、それはそれで仕方のないことだと思うし、感傷だけではなく先のことも考えて、張碓小学校、銭函小学校の地域の方とも、今でも交流がないわけではないので、もっと広い考えで、一つの新しい学校でやっていこうという思いもありますが、両方の面で、もしかしたら卒業できないかもしれないと思いつつ考えていたが、話を聞いていると、今の段階では何があるか分からないということですね。もしかしたら、早くに統廃合もあり得る。児童の人数によっては、最後に卒業生がほんの少ししかいなくなると、どんどん児童数が減っていくというのは、今でも運動会は少し寂しいという状態なので、それよりも減ってしまうと、球技や人数がいなくて出来ない学校行事もたくさんあるので、そういうものができなくなるというのが現実的に大変なことだと思います。おそらく、そういうことですね。柔軟に考えていかなくてはいけないのですよね。これから先というのは、そういうふうには私は理解しました。</p>	<p>今、率直なお話を聞かせていただいたと思う。少し制度的なお話をするが、教職員の定数でいえば6学級の場合で児童数が100人を切るか、切らないかで教員定数も1名変わる。現在100人を超えているので、フリーの先生が入っているが、100人を切ると1名減となる道教委の制度になっているので、その辺のところでも実際に指導、子どもさんたちと向き合う時間を作っていくという観点からは、あまり規模が小さくなってしまつと、困難性みたいなのが新たに出てくるという課題もある。</p> <p>今、発言いただいたことに何かお答えするというのではないが、私どもの考えをお話しさせていただく。</p> <p>今日お配りした資料の広報をご覧いただきたい。6ページと7ページの部分で、7ページの下に⑥として小さく銭函地区が載っている。横の6ページは中央・山手地区でこのページ全部がこの中央・山手地区だ。一目瞭然だが、中央・山手地区は小学校だけで6校ある。この中で、この桂岡と同じような1学年1学級という学校は、もうすでに4校がそういう状態になっている。それで、中央・山手地区は前期にしている。銭函地区は、小中合わせて4校だが、銭函小と銭函中はそこそこの規模の学校であり、全体の割合からすれば小規模な学校が集中しているということではないので、後期に位置付けたということ。機械的すぎると思われるかもしれないが、前期、後期に分けた考え方はそういうこと。</p> <p>ただ、前期にしても、後期にしても、それぞれの個別の学校の色々な条件からすれば、それぞれ異なるものを持っていると思っている。先ほど発言いただいた方との関係で、この桂岡小学校のことで言うと、今現在1年生から6年生までのお子さんで15人が本来桂岡小学校の校区だが、銭函小学校にいかれているお子さんがいる。どちらかといえば、国道から下の方の方が多い。皆さんの校区だからお分かりかと思う。良いとか、悪いとかではなく、通学距離の関係や保護者さんの勤務先との関係で、わりと銭函小へいく特認が多い流れがある。もう一方では、この桂岡に入学してくるというお子さんの人数が現状より増えるということとはほとんど考えにくい。それほど急に減っていくわけではないが、どちらかという減っていくという状況にある。先ほども言ったが、来週、張碓が終わるとこの地区の懇談会が終了する。終わったから、ここは後期だから、教育委員会は平成30年まで来ませんということではなく、このブロックの中での話を聞いた段階で、この地区としての今後の話をどうしていくのか、いつ統合するとかそういう話ではなく、しばらく中断で良いのか、そういうわけにはいかないのか、ということも含めて、ご相談をさせていただく場面を作りたいと思っている。</p> <p>まずは、この懇談会一当たり終わった段階で、出てきたご意見を集約、まとめさせていただいて、今後の進め方として考えているということだと思っておいていただきたい。8年後までずっと来ないということではないということだけ、考えておいていただきたい。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>銭函小 7月9日</p>	<p>1 質問だが、資料5ページの最後の◆で通学支援の方法についてと書いているが、これはスクールバスのルートのようなことなのか。</p>	<p>「再編により、バスを利用して通学する児童の数は増える見込みです。通学支援の方法については、実施計画策定の段階で検討を行います。」ということで書いてあるが、実施計画策定というのは、先程説明に使った青いリーフレットの左側の部分の下の方の囲みにひし形の印が書いてあるが、「仮に統合校が決まった場合」として「保護者や学校、地域の方がメンバーになった学校統合協議会で話し合いながら統合が円滑に進むようにします。」ということで、その下に「通学路の選定や通学安全上の問題」ということで書いているが、この実施計画というのは、統合が決まった場合こういった内容のものを盛り込んで実施計画というものを作る。通学支援についても、仮に統合校が決まった場合には、統合校をここにすると通学はバスになるとか、スクールバスを利用するとか、そういった具体的な協議をしていくということでここに記載をしている。</p> <p>今、銭函小学校に通っているお子さんは、2方向からJRバスに委託してスクールバスを走らせている。このブロックで言えば、張碓小学校の子どもさんは春香町の方から学校に行くのに路線バスを利用して小学校へ行っているということがある。それとあと今回、桂岡もこのブロックの中の小学校ということで、統合を考える学校ということになるから、今は当然徒歩で通っているが、銭函小学校へ来る時の通学手段について色々考えなければならない。そういうことで、このブロックの通学の方法については、三者三様であるわけだが、銭函小学校のお子さんも3分の2は徒歩で来ているが、その辺がどのような選択になるのか、ということは今段階ではなく、もう少し皆さんと議論して時間的な余裕をみながら話をする、というようにやっていった方が良いのではないかと、という意味合いで、通学支援の方法という意味合いでここに記述をしている。</p>
	<p>2 小学校のプランで銭函小学校になった場合、「大きな改修の必要性」で改修工事が必要とあるが、その点でどの程度の改修を見込んでいるのか。</p>	<p>他の学校に比べるとここは新しいが、それでも平成元年に建て替えているので、外壁であるとか色々な面で、外からご覧になっても分かっており、少しひびが入っているところとかがあるので、建物の診断をしてどういった改修をするか、あと余りにも学級数が増えてしまった場合、以前も一番多い時で16学級になったこともあるが、そうなった場合に増築するか、前の時は特別教室をプレハブにして中にある特別教室も一部利用したということもあったので、その辺りの改修ということも考えていかなければならないと思っている。大まかに言って、そういうことで、ここに書いてある改修ということをご理解をいただきたい。</p> <p>この学校の特徴として、このようなオープンスペースを活用してということがある。ただ統合した場合は、学級数が増えるので、それがこの状態で良いかどうかということも考えなくてはならない。そういう意味で内部の造作についてもどういった形がいいのか、子どもさんの数によって、クラス数によって考えなければならない。そういった面もあると思う。</p>
	<p>3 ここは13学級ということでやっているが、ひょっとしたら、銭函地区の児童数が増えることもあるかもしれない。そういったときに適度に教室数が必要になるのではないかとと思う。その点を考慮していただきたいと思う。</p>	<p>それはおっしゃるとおりだと思うので、将来の児童生徒数の見直しを持って考えていかなければならないと思っている。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
銭函小	<p>二つ質問させてほしい。一つは大きな話になるが、全市的に今、統廃合をやっているがスクールバスがかなり利用されることになると思う。税金を払う立場から見て、子どもの送り迎えにどのくらいの予算を考えているのか。</p> <p>二つ目は案では、銭函小学校を残すということで桂岡、張碓の子どもにこっちに来てもらうということになると、教育長も話したとおり、これから水泳学習が始まるが、8年後のことになるがプールがなくなる。銭函小学校にプールを作るといっても、どこに作るかわからないが、水泳学習ということが小樽にとってとても大事な行事だと思う。泳げる子を育ててきた、スキーと合わせて、プールについて、どういう考えがあるのか。全くなくするのか、それともどこかに設置するのか。具体的にあったら話を聞きたい。</p>	<p>スクールバスの予算をどのように見込んでいるかという質問だが、市内41校、全市的に再編を行うので、当然統合した場合、距離は遠くなる。5月17日から各校に説明に入っているが、通学距離が長くなった場合の通学支援についての質問が色々出ています。その中で、私ども41校を一当たり回っていくが、その中で、ご意見、ご要望などをいただいて、1回でこの懇談会を終わるとは考えていない。6ブロックに分けたのでいろんな意見をいただいて、次には2校や3校で話し合いを持っていくということもあるだろうし、もっと具体的に保護者の皆さんと協議を進めていくということもあるだろうし、そういった形で進めていきたいと思っている。当然スクールバスや路線バスの通学支援について、統合校が決まってそれが必要ということになれば、当然措置はしていかなければならないと考えている。</p> <p>プールについて、平成21年度のプールの利用状況を見ると、桂岡小学校のプールを利用している学校は6校ある。この地域の張碓や銭函小学校はもちろんだが朝里小学校も使っている。この地域でプールをどうするのかというお話だが、今の段階では、後期ということもあってプールをどうするかについては、明確なところまでは至っていない。これからどのパターンを選ぶかによりプールがなくなることもあるので検討課題だとは思っている。今すぐ、ここにこのように作るという案までは持っていない。</p>
	<p>銭函小学校が統合校の位置になるという案は妥当かなと思う。張碓小学校や桂岡小学校の駐車場やグラウンドの状況を見ても、児童に対して歩道やグラウンドの大きさが適切と思う。ただ保護者として見る側に立つと、児童の日常生活を見ると、保護者が送り迎えをしていることが多い。私も車を乗り入れることが多々ある。銭函小学校の入口が入りづらかったり、すれ違うのはかなりきつい。特に、札幌方向から小樽へ向かって左折するのと、右折する車がすれ違うのは大変だと毎回感じている。桂岡小学校と張碓小学校の保護者の方も、児童の生活上、習い事であるとか用事がある場合は車で送り迎えをすることになると思う。今、先生たちの車を駐車しているスペースでUターンしたり、グラウンドの校門側が少し広がっている部分があるが、そこでUターンをしたりしている。そういった日常生活の中で、児童の安全面を子どもに声をかければ大丈夫なこととは思いますが、もう少しゆとりのある空間がほしいと思う。</p>	<p>学校敷地の関係で、入口が入りづらいというのは、私どもも学校に来る時に感じるので分かる。ただ限られた面積の中で、どう改良していくか持ち帰って考えてみたいと思う。学校の敷地内に入って、先生方が車を止めているスペースでUターンということで話が合ったが、今すぐに敷地を広くということは無理なので、今校長も見えているので学校と一定のルールを考えていきたいと思う。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
銭函小	<p>もしここへの統合ということで決まったら、決まる前からだが、放課後児童クラブではプレハブの部屋にかなりの人数が詰め込まれているという状態がある。そういった点についても十分な広さを、統合になると人数も増えるだろうし、もう少し余裕のある放課後児童クラブの教室であってほしいと思う。それと、中央の方に行けば、図書館なり科学館なり色々な施設があるが、こちらの方から中心部に行くというのはかなり大変だ。何らかの形で、廃校になった小学校を利用するか、そういった点で、子どもたちの施設として使えるような、多目的に使えるような施設を考えていただければと思う。</p>	<p>放課後児童クラブについての要望をいただいた。私が福祉の時には放課後児童クラブの担当をしていた。今こちらはプレハブということで手狭ということでやっているが、放課後児童クラブについては国の基準ということではないが、児童1人当たりの保有面積が決まっています、東京の方いくともっと狭いという状況がある。今お話のあった点については、ご要望として持ち帰らせていただきどういう方法があるのかということについて探っていきたい。</p> <p>学校の跡利用ということについて、例えば今、お示している案でいくと銭函小学校が残るから、張碓小学校と桂岡小学校の跡利用については考えていかなければならないということになる。私どもの基本的な考え方については、使わなくなったからといって直ちに学校の施設あるいは土地を処分するという考え方は基本的にはない。地域の皆さんのご意見をいただきながら、跡利用について考えていくという考え方を持っているので、この集まりは学校の統廃合、適正化についてのご意見をいただくという場になっているが、学校の跡利用についても、今まで市内でもいくつかの学校がそういう状況になっているが、その際も跡利用について地域の皆さんのご意見をいただく場を設定しながら跡利用について検討してきているので、今お話があったのは、例えば、市の中心部から離れているということで、子どもたちのための何らかの施設をというご意見だったと思うし、先程はプールをというご意見があったが、そういったご意見を跡利用についての地区別懇談会というものを開催していくので、そうやって意見をいただきながら検討したいと思っている。ただ直ちに、財源の問題もあるし、残った施設の維持管理を誰がしていくのかという問題も一方ではあるので、そういったものも考えながら検討していきたいと考えている。</p> <p>市内の小中学校41校はすべて避難所に指定されている。地域防災計画というのがありますべてが避難所に指定されているので学校の再編と合わせて避難所としてのことも十分配慮していかなければならない問題ではないかと考えていて、まだ議論の過程なので具体的なことは申し上げられないので、一般的な形での回答ということでお許しをいただきたいが、避難所としての機能としては十分配慮していかなければならないのではないかと考えている。</p>
7	<p>プランの件だが、今まで懇談してきた中で何校くらいからプールを設置してほしいという話が出たのか。</p>	<p>すでに4分の3以上の会場の懇談が終了しているが、その中で新たにプールを設置してほしいという要望はなかった。ただ、現在プールのある学校が再編によって、別の学校に行った時にそのプールはどうするか、新しい学校にプールを設置してくれるのか、そういう意見はあった。</p> <p>現在、プールがある学校は小学校3校、中学校3校の6校ある。そのうち小学校の一つは隣の桂岡小学校ということになる。あと高島小学校が一番新しい、市民プールと一緒に使っているところだ。また幸小学校にもある。幸小学校を建て替えた時にプールを作った。桂岡小学校は昭和52年にこの銭函小学校から分かれて新しく作った時に建てた。当時は新しい学校にはプールを設置するという一つの考え方があったという時代背景がある。中学校は、長橋中学校、西陵中学校、向陽中学校この3か所にある。西陵中学校の懇談会では、プールの話も出ていた。この中学校にはプールがあるので考慮してほしいという発言もあった。ただ、新しく学校にプールをという話は今のところ懇談会ではない。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
銭函小	<p>8</p> <p>プールについて引き続き質問。小中学校でプール授業を年に数回やっているが、これはどこの小中学校でも実施されているのか。プールについての設置基準はどうなっているのか。では、プールが設置されている学校はなぜ設置されたのか理由が分ったら教えてほしい。</p>	<p>水泳学習について。小学校では水泳学習を行っている。中学校では3年生になると選択となっている。すべてではなく選択ということで水泳学習が含まれている。やらなくても良く、学校でそれを決めるという形になっている。</p> <p>学校設置基準の中には確かに、校舎や体育館を必ず作りなさい。グラウンドを作りなさい。というのはあるが、プールを作りなさいというのはない。先程司会からもあったとおり、現在市内6校に新しく校舎を建てた時にはプールを作るという時代背景とか、市内の各地域に満遍なくではないが、大体の方向で分散ということである程度教育的なことを考えて当時やってきたものと考えている。</p> <p>プールのことで補足するが、6校に設置しているが、そのうち長橋中学校については旧制の中学校であり、かなりの伝統のある学校だったので、当時建てた板谷宮吉さん、あの方があのような施設を建て、それを埋めたが、やはり伝統的にプールがほしいという思いがあり、今の場所に建てたという経緯がある。それから幸小学校だが、設立当時、建築会社の方が最初に建てた時、プレハブで屋根も何もなかったがプールがあるというものを寄贈してくれた。それも年月が経つうちに破れたり、色々なことがあり今のように屋根つきのプールになったということがある。建てた時に寄贈された方の思いがあり、今まで存続しているものだ。桂岡については承知をしていない。皆さんの方がご存知かもしれない。</p> <p>プールのない学校は、他の学校のプールを使ったり、高島小学校のプールを今は中心部の学校でも高島小学校のプールに行くバスに乗って行ったり、あと民間のサンフィッシュというプールが若松にあるがそこに行ったり、以前はウェルビーを使ったこともあるが、今は使っていない。朝里クラスにもプールがあるがそこを使っている学校もある。それから昔、望洋台に民間のプールがあったが、そこを望洋台で使っていたが閉鎖されたので、高島小のプールを使ったりということでもそれぞれ学校で工夫をしながら水泳学習に取り組んでいる。</p>
	<p>9</p> <p>廃校になる張碓小学校、桂岡小学校の保護者の方は来ているか。一番大事なことだと思うが、歴史的に古いし張碓小学校もあるし、桂岡だって頑張っている学校、その人たちが来ない中で議論しても、それで良いと言っているのか。答えは出ているのか。それは一番大きな問題だと思う。張碓小学校にしても、銭函小学校にしても、量徳小学校の分校として百年以上経っている。銭函小学校は130周年を迎える、張碓小をもっと古い。なくなることに對して、地域の人はどのように言っているか実際に聞いたことがあるのか。一番大事な問題だと思う。その人たちが了解して、来る方の学校はこれからの話だから良いけれども、なくなる学校の保護者がどう考えるか、その辺をもう少し、ひとりも来ていない中で議論してもどうしようもないと思うので、もう少し真剣に取り組むことが必要だと思うので、是非一つその辺をしっかりとっていただきたいと思う。</p>	<p>5月17日から市内全41校を対象に行っているが、桂岡小学校は、7月13日、来週の火曜日に同じ形で開催する。それから張碓小学校についても、その翌週の7月20日火曜日に開催する。ご意見を聞いているのかという話だが、このようにして皆さんのご意見、ご要望はお聞きをしているが、今はまだ6月4日までの分しか載せていないが、市のホームページの方にいただいたご意見、ご要望を載せている。それから、小規模校ということで、学校の歴史に触れたご発言もあったが、先日、豊倉小学校での懇談会、豊倉小学校も張碓小学校と同じく複式の学校だが、その前は、塩谷方面の忍路中央小学校で行ったが、確かに、豊倉小学校では自然を生かした体験発表をしており、地域とも密接に関係ある学校だということがあり、忍路中央小学校でも同じような意見が出ていた。その中で一方複式になると、実際、豊倉小でも話があったが、3人しかいない学年もあり、3人が仲の良い時は良いが、ちょっと喧嘩をしたりすると、ちょっとその子の居場所がなくなる。そういう場合なかなか辛いというお話もあった。それと、あそこは卒業すると朝里中学校に行くが、1クラス3人しかいないところから、朝里中学校になると1学年百人くらいの規模になる。その中に2、3人で入っていくことになる、その時のギャップのようなものもなかなか辛いということで、保護者の方からそういったお話もあった。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
銭函小	<p>10 私が開いているのはそういう話ではない。歴史を持っているのだからしっかり話をしてほしいということで、教育の問題を言っているわけではない。</p>	<p>歴史の話も色々出ていた。私どもそういった意見なりご要望を聞く場ということで、このような機会を設定している。</p> <p>来週以降、桂岡小学校、張碓小学校で同じように意見を十分聞いていきたいと思う。</p>
	<p>11 私は統廃合という言葉をも基本的には十分に理解できないところがあるが、「統」は良いが、「廃」の方、いわゆる廃校、閉校には辛いことがつきまとう。伝統ある学校が廃校になるのではなくて、例えば、A校ならA校の中で統合されて、生き延びていくというか、歴史は続くという考え方。具体的にいうと札幌の創成小学校という北海道一の伝統のある学校と豊水小学校、これも伝統のある学校だが、これが統合するときに、閉校、廃校という感覚を避けて、資生館小学校という全く新しい学校にして両校の伝統がその中に生きていくという形をとって地域住民の感情を考えたわけだが、銭函地区は比較的そのようなことがやりやすい地区だと思う。やはり、他の学校についても、閉校、廃校という悲しい言葉を聞かなければならないのか。それとも、A校ならA校に統合されて、そこで歴史がついていくんだ。そのためには、校名や校歌など変える必要が出てくる、そういう準備が教育委員会の方であるのか。地域住民の希望によってということになるのだろうが、教育委員会としてはこのことをどのように考えているのか。そのことによって地域住民の思いも大分変わってくると思う。</p>	<p>こちらで適正化基本計画というものを作らせていただいた。その中に書かれていることだが、学校再編の進め方というところに、「学校再編は、従来の通学区を隣接する学校に編入する統合だけでなく、統合の対象校はいずれも廃止して新しい校名の学校にすることも視野に入れている。」ということで、今おっしゃったように札幌市の資生館小学校のようにいくつかの学校が一つになって新しい学校を作るという発想、特にこの銭函地区は、本当に一生懸命に子どもたちの健全育成について取り組んでいただいているということを私どもも十分に理解している。今おっしゃったようにそういう意味では、新しい学校を作るという意味では、先程の方の話にもあったように、私自身、18年3月31日に堺小学校を教頭で閉じた。その時は非常に辛かった。その思いは、住んでいる方ではないと分らない。その学校に携わった人間でないと分らない。その思いというのを十分にかみしめながら、いい学校を作る、そして子どもたちにいい環境を与える。そういう視点を私ども大事にしていきたいと思う。このように思っているのでご理解願いたい。</p> <p>今のご質問で、廃校だとか、閉校だとかそういう言葉を私どもあまり使いたくないということで、「学校の統合を進めるに当たって」という青いリーフレットを見ていただくと分かるが、今、主幹が言ったように統合するとか閉校するとかそういうことではなく、いくつかの学校が集まって、新しい学校を作るということで教育委員会は、考えている。リーフレットの左側の方に「2年程度かけて保護者や地域の方の協力をもらいながら」の下の方に話がどんどん、銭函の2校をこれから回って行くが、最終的にはまだ先のことになるが、「保護者や学校、地域の方などで構成した学校統合協議会（仮称）と教育委員会が参加して」という学校にするのかということで、通学路の選定やPTA、地域の連携、校歌、校名、校章ですとか、色々なことについて新しい学校だから例えば、桂岡がこちらに来るとすると1人、2人ではなく、たくさん的人数になる。そうすると、ここの学校の校歌をどうしようかということ保護者や地域の方だとか伝統もすべてひっくり返して、これから考えていくという考え方に立っている。教育目標などもあるが、今ここに先生、保護者、教育委員会や地域の方にも入ってもらって、新しい学校を作っていくという思いでないと、先程出ていた「統合される」「閉校される」という思いだと何かよそに行くと、小さい思いで、という思いを子どもたちにも保護者にもしてほしいので、おっしゃったとおりの方向で考えていて、こうして活字にしているところなので、ご協力をお願いしたい。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>銭函中 7月22日</p>	<p>1 子どもが小学校の後半の時に小樽に引越してきたので小樽のことは良く分からないが、子どもがこれだけ減っているというの、普通に社会として減ってきているのと一緒に減ってきているというのは分かるが、分からないから聞きようがないというのもある。 今、聞いていて思ったが、小学校のプランで、銭函小学校のお母さんから、今の教室数では合併しても児童が全員入らないのではないかと聞いたことがあるが、合併する時に今の教室で足りるのか。</p>	<p>銭函小学校の懇談会でも同じような質問があった。確かに一番気になる点かと思うが、銭函小学校の過去を調べてみると、今の校舎になった平成元年は13学級だった。特別支援学級はない。一番多い時は16学級という時期があり、今もその当時のプレハブが残っているが、図書室をプレハブに移して、特別教室を普通教室に入れ替える操作をして16学級を確保していた。実際に、学級数がどこまでなるかはあるが、今後もそのような形で、学校の中でやりくりできるのか、それともプレハブを使用しなければならないか、簡単に増築といっても何年も同じクラス数が維持されれば増築も考えなければならないが、場所のこともあるので、簡単にすぐ増築ということはお答えできない部分もあるが、学校の中の仕切りやフリースペースを利用してどの程度までいけるか、具体的な数が分かってから考えていきたいと思っている。過去の例から16学級というのはあったが、特別教室を潰すというのはあまり良いことではないので、それらのことを含めて検討していきたいと思っている。</p> <p>資料、冊子の4ページに小学校のプランが出ており、一番下に学年別の表が出ている。三つの小学校を合わせた場合396人、6年生が81人で3学級編制になり、トータルで13学級編成となる見込みを今の時点でしている。今銭函小学校は通常の学級12クラス編成で、そのままでは教室が足りないということで、ただ、今言ったように、12クラスの中に13クラスの子どもさんを入れるわけにはいかないので、当然学校の中で教室の入れ替えをしたり、あるいは増築ということも基本的には考えなければならない場面も出てくると思う。それがずっと続くということが推計で分かれば、ただ子どもさんの勉強の環境を落とすようなことは念頭にないので、その時点、その時点で最善の方法を考えていく。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
銭函中	<p>2 忍路から長橋まで合併するという話で、どのくらいの距離か分からないが、説明のとおり考えたとして、人数の観点から考えた場合に、何十年先になるか分からないがこの先どんどん子どもの数が少なくなった時に、朝里との合併という形になるのか。</p>	<p>先ほども少し触れさせていただいたが、15年間の計画を立てた一つの根拠は、平成20年に生まれた子どもが15年後には中学3年になる。そこまでは、推計できる。そこで15年間というスパンで計画を作った。今発言いただいた方も11人という中学校は解消していかなければならないと思っている。その時のバランスだ。平成15年、16年にも中学校の適正配置をやった。その時は距離の要件を決めていた。通学距離が、小学校2キロ、中学校3キロを超えたところは対象にしないとした。その場合、再編できる地域が中心部の一部しか該当しない。距離要件だけではできないと考えたのは、平成15年くらいまで市内で生まれるお子さんは950人くらいいたが、平成16年に一気に800人台に落ちた。昨年生まれた子どもさんは730人くらい。そうすると、距離要件だけで学校の再編を考えると、たくさん小さい学校が残ってしまうので、距離要件を外して、学校運営の適正な規模としてどうかということで作った。ここで書いている基本は、中学校は9クラス、小学校は12クラスにしたいということが軸になっている。</p> <p>今後、言われたように、もし銭函、朝里ということでそのような状況が出てくれば、統合になり得るのかは、一つの議論になると思う。今度のプランでは41校を21校にとしている。そのなると、学校間が広がる。まちのつくりも当然あるので、それとのバランスでどのように考えていくかは、次の代で議論していただくしかないと思っている。ご承知かと思うが、平成17年から日本国中が人口減少社会に突入し、札幌でも学校の再編をやっている。手稲区でもやっている。つい20年前まではものすごく子どもがいたのが、新興住宅地は一世代で終わってしまう、家を建てて住んで、子どもが大きくなると親だけの町になってしまう。何代も住むということにはならない。桂岡がそういう傾向がある。銭函は、商店や会社があり、回転がある。今小樽の中で、子どもが減っていく量が多いのは、朝里、新光町。今はいますが、この先落ちていくのが多くなるのはあのような地域。望洋台もそうで、宅地造成をして家が建っていけば維持はされるが、家が建たなくなった瞬間にぐっと落ちてしまう。文字通りそれは、今後の小樽のまちのつくりがどのようになっていくのかということで議論していかなければならないと思っている。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
銭函中	<p>3 使われなくなった小学校は、今後どうするのか。</p>	<p>使われなくなった学校のその後ということだが、この地区では桂岡小学校の懇談会でもあった。桂岡小ではこのように使ってほしいというご提言もいただいた。まずは、このように懇談会を進めているが、いずれ統合校が決定することになれば、統合校にならない学校が空くわけで、計画どおりにいくと41校の半分が空くことになり、市全体では貴重な市民の財産であることから、具体的には統合校が決まり、空く学校が決まった時点で、地元の方々の活用に対する意見を十分聞いていきたいというのが第一。その他にも市全体のバランスというか、中心部では学校がかなり近くにあるので、市全体でのバランスも考えながら、学校や地域の持っている特性についても考慮しながら、繰り返しになるが、地域の方々のご意見を聞いて、どのような活用が良いのかということを決めていきたい。</p> <p>今、現在では、どこどこに何々をといった具体的なことは全くないが、そのような形で進めていきたいと考えている。</p> <p>転入されてきた方でした。ここ10年くらいの間に4校適正配置で無くなった学校がある。どのように使われているかお話しするが、中心部にあった旧堺小学校は市立小樽病院の看護学校に転用して使っている。キャパがあるので、他の施設も入っているが、メインは看護学校として使っている。旧住吉中学校は南小樽駅に近いところにあるが、今は双葉中学校として使われている。旧東山中学校は教育委員会の庁舎として、2階、3階は使用している。1階は「子ども発達支援センター」という、言語、肢体とか就学前の障害を持つ子どもさん方の療育施設として使用している。これだけのキャパを持つので、色々な使い方をしていく。ただ、忍路方面となるとほとんど学校というのは公共施設としても重要な場所なので、地域の方々と学校では無くなっても体育館を地域の活動の場に使うとか、そういった議論はしていかなければならないと思っている。</p> <p>一つ前の質問だが、今回の再編プランを突然皆さんに示しているわけではなく、4年前の平成18年から市民の皆さんの組織、検討委員会というのを作り、学者や保護者の代表、学校の先生方にも入っていただいて1年以上議論をして、その後説明会や懇談会で市民の皆さん延べで1,000人以上の方が参加をして、最終的に今このようなプランになっている。これから、15年計画の後のことについては、同じように市民の皆さんの色々な形での意見を聞きながら学校の在り方についてどうすべきかというのは次の世代というか、次の当時の中心になっているメンバー皆さんが市民的に色々な意見をぶつけあって、学校の在り方について検討されるものと考えている。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
銭函中	<p>4 私は張碓小学校の卒業生の親で、以前張碓小学校の説明会で聞いたことがあるが、小学校に通う若いお母さんたちが、統合した場合、銭函小学校にバスで通う1年生は心配だという話をされているようだ。私はもう小さい子はいないが、小学校低学年だと通うのが大変だと思う。小さい子を持つお母さんやこれから子どもを産もうとするお母さんたちもそれが一番聞きたいと言っているが、スクールバスを出してもらえとか、どんな手段を使っていったら良いのかとか、心配事がたくさんあると言っていたので、聞いてみたいと思った。</p>	<p>現在、スクールバスとか通学助成を含めて400人くらいの子どもがその制度を利用している。銭函地区は、銭函小学校の方でスクールバスを150人くらい利用している。張碓小学校では、バス助成制度があって、小学生は2キロ以上、その二分の一以上のバスの乗車区間があれば助成をしている。将来的に仮に張碓小学校の子どもたちが銭函小学校に通う場合に、現状であれば路線バスで銭函小学校に行く場合、それが有効なのか、もしくは現在銭函小学校でスクールバスが出ているので、今銭函小学校でスクールバスを出しているのは、利用する方が150人とたくさんいるので、スクールバスを導入している。それが有効なのかということ踏まえて検討していかなければならないと考えている。</p> <p>配付した地図をご覧ください。張碓小は60人くらいの学校で、国道から下の方の、北海道高等聾学校の横の道路が書かれている部分の、新しく造成されたところから通われてるお子さんが40人、3分の2ほどいる。そのお子さんたちは全部ではないが、多くの子は張碓小学校に通うのに現在も路線バスを使って通っている。</p> <p>この地域は先ほども触れたが、子どもが少なくなってきたと思えないところだ。忍路の方は、20年くらい前は150人くらいいた学校が、今は20人、30人の学校になってしまっている。そこに住んでいる人の意識は違うとは思いますが、冊子の2ページをご覧ください。先日の張碓小学校でも言ったが、張碓小学校は入りくり無く張碓町と春香町、この住所は全部張碓小学校に入る。中学校3年生は平成27年度では15人、2年生12人、1年生は10人。その列の小学校を見ていただくと、この6年生は今の1年生で、8人になっているが、転出された方がいて現在は7人。平成27年の1年生、20年生まれのお子さんは6人になっているが、2人転出されて今は4人。その次の1年生、21年度生まれも4人です。張碓でも言ったが、今まで1学年10人くらいできていた地域というのは分かるが、今後この地域がどのようになっていくのか、1学年4人になってしまうのか、そこは推移を見てまた話し合いをしようと言って帰ってきた。今後どうなるのかはあるが、地域の方は春香のところは造成が終わって、家が建つところもいっぱいあるから、これからまだ子どもさんが増えると。ぜひそうあってほしいとは思いますが、もう一方では現実はどうなるかという、見極めが必要かと思っている。その意味では、来年、再来年から考えようということではなく、その辺の状況、あのまちの成り立ちを見ていかなければならないと思っている。</p> <p>ご質問のバスの関係はよろしいか。基本的に銭函小学校となればバスを利用する、バスを利用せざるを得ないという部分があるから、その場合も今もJRバスを利用しているが、JRバスになるか、あるいは銭函小学校で星野の方やあかしあタウン 銭函3丁目の方からスクールバスを出しているから、そういう選択になるか、それはもう少し具体的に話し合いが進んだ段階で、率直なご意見も、張碓小学校の保護者の皆さんからもご意見も聞きたい。</p>

銭函ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
銭函中	<p>5</p> <p>（要望） きっと桂岡小学校の方からも出たと思うが。私引越してきた時に、一番最初にどこに住もうかと決めた時は、坂の無い所。スーパーが近い所。学校が近い所。JRの駅が近い所ということを考えた。結局、銭函小学校に入るつもりだったが、間違っって桂岡に行った。ちょっとした区域の違いのところだったようで、少し大変だと思った。桂岡地区はすごい坂の上であって、皆が集まる、集うところがないと、あの辺りはどンドン寂れてしまうのではないかと思っている。きっと桂岡小学校のお母さんが意見を出したのではないかと思うが、あそこに何か空き教室を使ったものがぜひほしいと思っている。</p>	